

君の名は。4（聖地裏解説）

諏訪湖



しくみ

- 諏訪湖中央 232.4km - 大甕神社 - 月山神社 232.4km
- 春宮大門 232.4km - 大甕神社 - 月山神社 232.4km
- 諏訪湖中央 194.19km - 大神神社 - 月山神社 194.19km

勝頂角

大甕神社

星神の天津甕星（天香香背男）を封印していると言われる神社。神域を成している宿魂石は、天香香背男が化したものと伝えられている。祭神は天香香背男を封印した倭文神の武葉槌神で、どちらも物部系のようです。倭文とは倭国の織物のことで「しとり」、「しつり」、「しどり」と読み、日本古来の文様を持つ素朴な織物「倭文織（しつおり）」という意味。

武葉槌命は日本で織物を始めとする組織的な産業を最初起こした神で、知恵の神でもあり、様々な生活の術を東日本に広め人々の生活を向上させたそうです。日本書紀の葦原中国平定にのみ登場し悪神とされていますが、全国の星神社や星宮神社の多くは天香香背男（天津甕星）を祭神としているので、天孫族に滅ぼされた出雲系の神と考えられ、葦原中国平定に最後まで抵抗した神ということで諏訪神の建御名方命と同一神とされることがあり、また北極星を神格化した妙見菩薩の化身とされることもあります。

また、鹿島神宮誌によると天香香背男一族は駿河国の富士山麓の海岸にいて、天孫族の発展とともに北へ北へと駆逐され常陸国に居を構えたそうです。天香香背男は東国の陸地や海上に一大勢力を持っていたといえます。

茨城県日立市大みか町6丁目16-1



大神神社

倭大物主櫛瓊玉命（やまとおおものぬしくしみかたまのみこと）大物主命を指す。大神神社（奈良県桜井市）からの分霊。配祀神 木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）瓊々杵命（ににぎのみこと） - 木花咲耶姫命の夫神。大山祇命（おおやまつみのみこと） - 木花咲耶姫命の父。彦火々出見命（ひこほほでみのみこと） - 木花咲耶姫命の子。火遠理命に同じ。

社伝では、崇神天皇の時代に豊城入彦命（崇神天皇皇子）が東国平定の折に戦勝と人心平安を祈願し、当時から広く名を知られた室の八嶋（むろのやしま、室の八島とも記す）に、崇神天皇が都とした大和国磯城瑞籬宮（現在の奈良県桜井市金屋）に座した大三輪大神（大神神社）を勧請したのが創建とされている。栃木県大田原市大神



左負角

諏訪湖中央

諏訪明神は、神代より「龍の化身」として拾数体の龍頭がつくられた。諏訪大明神画詞の中に「元寇の役即ち文永十一年(1274年)弘安四年(1281年)再度にわたる蒙古軍の襲来に際し、上社の神苑に巨竜立ち昇り西方に向かって飛翔し博多湾上に蒙古の軍船を撃滅し給う」という記述がある。

1986年（昭和61年）、国土地理院のソナーによる湖底地形調査では、湖底に一边が25mとされる菱形の“物体”が発見された。これが信玄の水中墓ではないかとされ、信州大学、読売新聞、日本テレビなど複数の団体が10数年にわたって調査を行った。電磁波探知機により墓標のような立体が確認されたとも報道されたが、最終的には謎の菱形は湖底の窪地の影であるとの結論が出された。しかし、問題の菱形が自然にできたとは思えない程はっきりとした形をし



ており、湖底は泥が深く目視による実地調査が困難であることから、水中墓説を支持する声は現在でも多い。菱形の頂点が東西南北を指していることから自然の造形物とは考えにくいとされている。

春宮大門

下社春宮の一の鳥居。鳥居には諏訪大社の神紋である梶の葉紋を模した注連縄がかかっている。



右負角

月山神社（山頂）

祭神/月読命 神仏習合により月山神の本地仏は阿弥陀如来であると考えられるようになったが、八幡神の本地仏である阿弥陀如来が、月読命になぞらえられた月山神の本地仏となったのは東北的な特性であると言え、浄土教の浸透が阿弥陀如来信仰を月山に導いたと思われる。室町時代まで月山の神は八幡大菩薩とされていた。

社伝によれば、崇峻天皇の第3皇子である蜂子皇子が推古天皇元年（593年）に羽黒山を開山し、さらに同年、月山を開山して当社を建立したのだと言う。蜂子皇子は土地の人たちの面倒をよく見て、悩みや苦しみに耳をかたむけたことから「能除仙」と呼ばれるようになったとされる。しかしながら、史料から考察する限り、開祖である能除仙と蜂子皇子が同一人物であると言う根拠は無い。また、磐舟柵が3度目に修理された文武天皇4年（700年）から出羽郡が建てられた和銅元年（708年）の間に越国以北の夷征が行われたが、出羽の蝦夷征討が開始される前に出羽三山へ登ることは出来なかったと思われる。

『新抄格勅符抄』の宝亀4年（773年）10月符では月山神に神封2戸が寄せられているが、これが月山神の史上における初見である。『日本三代実録』には月山神の記事が度々登場し、神階の陞叙を受けるなどしている。



備考

諏訪湖と月山を支配下におく大甕神社と大神神社。大甕神社が封じている天香香背男と諏訪神の建御名方命が同一神という説があるが、まさに左負角は諏訪湖の真ん中。（春宮大門にピンポイントでぶつかることに信憑性）大門は諏訪湖に向かっての鳥居でもあるのかもしれない。大甕神社が建御名方命を封じているとすれば、筆者の推測どおり、このしくみ（頂角45度の三角形）の勝ち頂角、負け角の考え方は当たっているといえる。

大甕神社の祭神は、日本古来の文様を持つ素朴な織物「倭文織（しつおり）」神の武葉槌神。アニメ映画「君の名は。」が、なにか真実を伝える映画だとしたら。出てくる主人公は「三葉」母の「二葉」祖母の「一葉」。伝統の織りを伝える神社の娘たち。武葉槌神をあらわしたのか。建御名方命が天香香背男なら星神。諏訪湖にその星神（流星・竜星・竜族・ナーガ族・出雲系）が君臨し（落ち）、同じ出雲系竜族の土着神の武葉槌神は滅ぶ。「君の名は。」は、この国譲りの一幕を表したのだろうか。

大甕神社は出雲系武葉槌神が同じ出雲系天香香背男を封じている。出雲系クナト神も息栖神社では天孫族に使われて穂高と大朝日岳を封じている。同じように同族で争わされたのだろうか。建御名方命や武葉槌神の「たけ」は、出雲族の「竹」（かぐや姫等）ではないかと思った。そして倭文織神は瀬織津姫命と同じ織の字がある。大朝日岳には溝織姫命がいた。諏訪湖には仲のいい手長・足長の夫婦神がいたのだが、それとは違うようだ。

天孫族に操られ、建御名方命は同族の武甕槌神一族が住む諏訪湖を征した、まもなく生き残った武甕槌神一族により殺され、共に大甕神社に埋葬され、宿魂石になり、諏訪湖と月山・湯殿山の龍神を封じさせられているのかもしれない。内戦を起こさせて利益を得るのは天孫族の典型的な仕業。現代も同じことが日本でも世界でも行われている。このアニメも「千と千尋の神隠し」同様に、そんな隠された悲劇を伝える目的があったのかもしれない。内容はとても良かった。

だが、主人公の二人が会う四ツ谷の須賀神社は出口王仁三郎の大本教東京宣教の拠点。さらに現代では創価シティ。そして、東京タワー、ドコモタワー、一行院、聖徳記念絵画館…これらをアニメ聖地化し、多くの人の気を集め、「しくみ」により巨悪たちはさらに気を引き寄せ強くなる。

このアニメも、結局はお金で支配され、巨悪の手の内となっているようで悲しみは増す。





詳しくはカテゴリーより、古い神社の役割/香取神宮の本当の役割をご覧ください